

ニュースリリース

ご担当者様 各位

2012年3月23日



インドネシア 「タンジュンプリオク港緊急リハビリ事業」を受注

東洋建設株式会社（社長 毛利茂樹）は、インドネシア共和国運輸省海運総局発注のタンジュンプリオク港緊急リハビリ事業のうち、「ロット 1：航路・泊地改善工事」を現地国営大手アディ・カリア社との共同企業体にて受注し、2月に契約いたしました。受注金額は約 78 億円、工期は 900 日です。本事業は、日本政府が独立行政法人国際協力機構（JICA）を通じて供与する円借款にて実施されるものです。

当社は、中期経営計画において海外事業への取り組み強化を進めておりますが、今年度はケニア共和国「モンバサ港建設工事」に続き、2 件目の海外大型港湾工事の受注となりました。

タンジュンプリオク港は首都ジャカルタ北部に位置し、コンテナ貨物では全国の約半数近くを取り扱う、インドネシア最大の国際貿易港ですが、その基本的な姿は 100 年以上前の旧オランダ統治時代の建設のままであり、防波堤に囲まれた狭い水域がネックとなり、港湾内の航路は原則片面通航となっております。そのため、沖合いで多数の待船が常態化するなど、コンテナ船の円滑な入出港が困難な状況にあり、緊急的対応の必要性からも改良が待ち望まれているところでした。

こうしたなか、本事業はタンジュンプリオク港において、航路拡幅や増深等を行うことにより船舶交通の効率化を図り、今後の需要増大に対応させ、国際的ハブ港としての機能を拡充することを目的としています。

具体的には既設の防波堤を撤去し、沖合へ新設することによる船舶の回頭水域の確保、片面通航 125m から両面通航 300m への航路拡幅、さらに大型船への対応のため航路・泊地水深 14m への増深等を行います。

また本事業では、撤去する防波堤から発生する砂、石ならびにコンクリート・ブロック等を、新設する防波堤に再利用することにより、コストの削減を図っています。

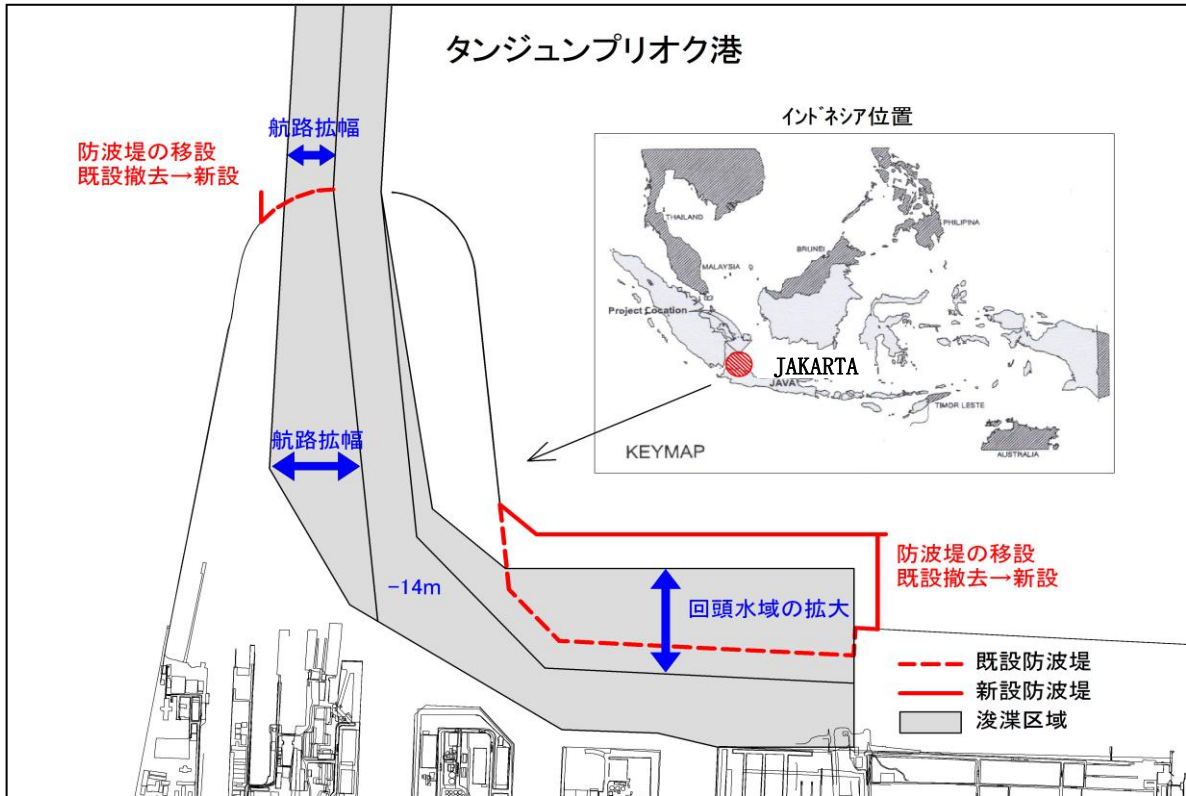
順調な経済発展を続けるインドネシアでは、増加する港湾荷役量に対応するため、タンジュンプリオク港内に位置する北カリバル地区新港、また西ジャワ州チラマヤ新港の大型港湾開発が計画されております。

当社は、インドネシアを海外事業における重点国の一つと位置づけ、今後も港湾開発を始めとするインフラ整備プロジェクトに積極的に参画し、我が社の優れた技術を同国へ移転し、インドネシアの経済発展に寄与していきます。

<工事概要>

既設防波堤撤去工	総延長 約 1,863m
防波堤新設工	総延長 約 1,660m
航路・泊地浚渫工	約 8,100,000m ³
航行援助標識等据付・移設工	一式

<工事概要図>



<現在のタンジュンプリオク港>



港口付近



既設防波堤

問い合わせ先 東洋建設株式会社企画部 濱田 敏弘
電話 03-6361-5461